

家畜衛生だより

- 監視伝染病発生状況
- 県内の家畜疾病発生状況
- 豚熱経口ワクチン野外散布及び捕獲イノシシの豚熱等検査の実施について
- 家畜伝染病予防法が改正されました
- 家畜の生産性を守るための「暑熱対策」実践ガイド
- 畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究について
- がんばる愛媛の畜産第 41 回四国連合乳牛共進会でグランドチャンピオン賞受賞！
- 電源立地地域対策交付金を活用した機器整備
- 新入職員紹介

監視伝染病発生状況

○家畜伝染病発生状況（前号未掲載分～令和 8 年 3 月）

※農林水産省集計及び中四国各県からの発生報告による。

畜種	病 名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	
牛	ヨーネ病	鳥取県	10月	1	1	
		岡山県	10月	1	1	
鶏	高病原性鳥インフルエンザ	香川県	1 月	1	2	国内15例目

○届出伝染病発生状況（前号未掲載分～令和 8 年 3 月）

※農林水産省集計及び中四国各県からの報告による。

畜種	病 名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	牛伝染性リンパ腫	鳥取県	10～3	26	29	島根県	10～1	3	9
		岡山県	10～3	12	40	山口県	10～1, 3	10	12
		広島県	10～3	5	15	徳島県	10, 1, 2	3	4
		香川県	12～3	4	9	愛媛県	1, 2	2	2
		高知県	1, 3	3	3				
	破傷風	岡山県	10	1	1				
	アイノウイルス感染症	徳島県	1	1	1				
豚	サルモネラ症	岡山県	10	1	1	島根県	11, 12, 2	3	7
	サルモネラ症	愛媛県	3	1	2				
	豚丹毒	広島県	10～3	1	10	香川県	10, 11, 2	2	5
		愛媛県	2	1	1	島根県	12	1	1
	豚繁殖・呼吸器障害症候群（PRRS）	岡山県	1	1	1				
鶏	鶏伝染性気管支炎	広島県	11	1	5	愛媛県	2	1	5
	伝染性ファブリキウス嚢病	島根県	12	1	5	愛媛県	3	1	3
		岡山県	1	2	5				
	鶏伝染性喉頭気管炎	岡山県	3	1	4				

蜜蜂	アカリンダニ症	鳥取県	10, 11, 1, 2	5	8	山口県	11, 1	2	2
		岡山県	11	1	1	香川県	2	1	2
	バロア症	広島県	12	1	10	愛媛県	2	1	300
犬	レプトスピラ症	島根県	11	1	1	広島県	10	1	1
		岡山県	10, 12, 1	4	4				

県内の家畜疾病発生情報

(前号未掲載分～令和8年4月)

〔牛伝染性リンパ腫〕 【届出伝染病】

[illegible]

[牛コクシジウム病]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	12月	乳用牛	1	1	1	水様性下痢
南予	12月	乳用牛	0	1	1	下痢、食欲不振、死亡

【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○抗コクシジウム剤の投与

〔トウルエペレラ・ピオゲネス感染症〕

発生管内	発生日	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
中予	12月	乳用牛	73	1	1	発熱、急死、呼吸困難、チアノーゼ
【対策】 ○飼養環境の改善 ○原疾患（肺炎、乳房炎等）の早期治療						

〔牛コロナウイルス病及び牛ロタウイルス病の混合感染〕

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	12月	乳用牛	1～62	1	7	乳量減少、水様性下痢
東予	1月	乳用牛	0	1	1	水様性下痢

【対策】
○畜舎消毒の徹底
○飼養環境の改善
○ワクチン接種

[牛マイコプラズマ肺炎及び牛パスツレラ症の混合感染症]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	12月	肉用牛	3	1	1	発咳、発熱、開口呼吸
	1月	肉用牛	7,5	2	2	
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○飼養環境の改善 ○有効薬剤の投与						

「牛コロナウイルス病」

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	12月	乳用牛	2～25	1	6	食欲不振、発熱、乳量減少、 水様性下痢、血便
	2月	肉用牛	21	1	1	
	3月	乳用牛	40, 44, 50	1	3	
【対策】 ○畜舎消毒の徹底 ○飼養環境の改善 ○ストレスの低減 ○初乳の確実な摂取 ○ワクチン接種						

家畜伝染病予防法が改正されました

令和 8 年 5 月 19 日、家畜伝染病予防法の一部を改正する法律が公布され、一部は同日付けで施行されました。今回の改正ポイントは以下の 3 項目です。

○ポイント 1 豚熱への効率的・迅速な対応

➤ 全頭殺処分から「選択的殺処分」への変更 [5 月 19 日施行]

これまで豚熱発生時には全頭殺処分でしたが、科学的知見に基づく検討の結果、ワクチン接種地域（北海道を除く 46 都府県）では、ワクチン免疫未成立の子豚や臨床症状があり検査で陽性となった豚のみを殺処分する方法（※殺処分の範囲は県と国の協議の上で決定）に変更されました。これにより、まん延防止の徹底と発生農場の経営への影響や防疫措置に係る負担の軽減を両立させることが可能となります。

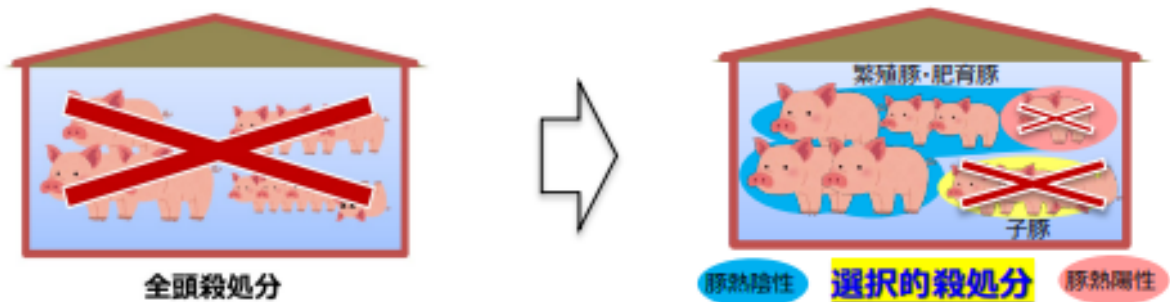


図 農林水産省消費・安全局 HP より引用

➤ 豚熱ワクチン接種者の確保等 [2027 年 5 月 1 日施行]

登録飼養衛生管理者による豚熱ワクチンの接種については「豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針」に基づき、既に本県でも実施しているところですが、今回の法改正により、法律上の位置づけとなります。

○ポイント 2 ランピースキン病を家畜伝染病に格上げ [7 月 1 日施行]

国内初の発生となった令和 6 年の事例を受け、まん延防止措置に法的強制力を持たせるため、令和 7 年 7 月 28 日から本病を法第 62 条の疾病の種類として指定し、家畜伝染病に準じた措置を講じてきましたが、改めて本病を届出伝染病から『家畜伝染病』に格上げし、発症牛の殺処分や緊急ワクチン接種、移動制限等が義務化となります。

○ポイント 3 輸入禁止品への対応強化 [7 月 1 日施行]

国内に違法に持ち込まれる畜産物が増加し、国内の外国食材店等での販売事例も確認されていることから、対応強化のため、流通段階においても規制を行うこととなり、輸入禁止品の販売等が禁止されます。

家畜の生産性を守るための「暑熱対策」実践ガイド

近年、夏季の記録的な猛暑は畜産経営にとって深刻な脅威となっています。家畜が「ヒートストレス」に陥ると、採食量の減少、増体率の低下、産乳量の減少、繁殖成績の悪化、さらには死廃事故へと直結します。本稿では、家畜の健康と生産性を維持するために欠かせない、今すぐ取り組むべき暑熱対策を整理します。

1. 『畜舎環境の改善』 まずは家畜が過ごす環境から熱を排除することが基本です。

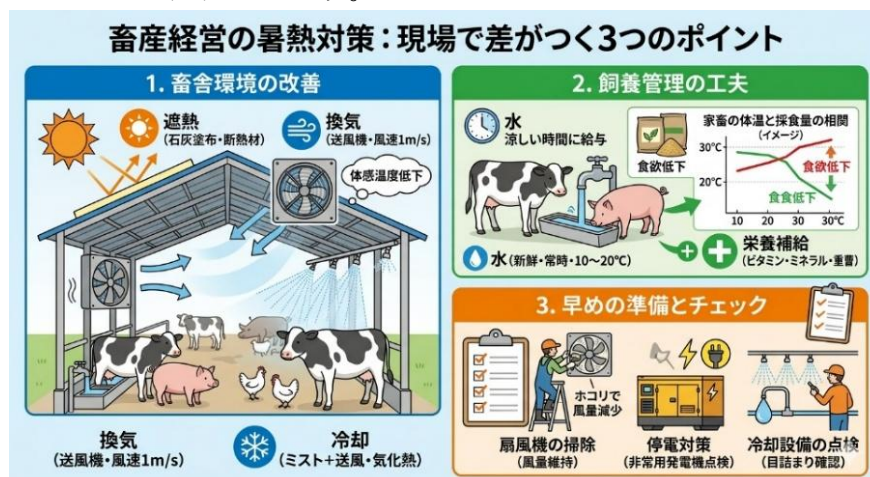
- ・ 直射日光の遮熱：畜舎の屋根に石灰を塗布したり、断熱資材を設置することで輻射熱を抑えます。窓や入り口にはひさしや寒冷紗などの遮光ネットを設置し、畜舎内への直射日光を防ぎましょう。
- ・ 換気と送風：送風機やダクトファンを活用し、滞留した熱気を排出します。特に牛の体感温度は風速 1m/s で約 6℃低下するとされており、家畜に直接風を当てる「送風」は非常に有効です。
- ・ 気化熱の活用：細霧（ミスト）装置や散水機で家畜の体を濡らし、そこに送風することで気化熱により体温を効率的に下げることができます。

2. 『飼養管理の工夫』 暑さで胃腸の動きが弱まった家畜に対し、栄養補給の質とタイミングを見直します。

- ・ 給水管理の徹底：家畜は暑くなると飲水量が激増します。常に新鮮で冷たい水を十分に飲めるよう、給水槽のこまめな掃除と水温上昇の防止を徹底してください。
- ・ 給与時間の調整：消化活動による体内発熱（代謝熱）を抑えるため、涼しい早朝や夜間に飼料給与の重点を移す「ずらし給与」が効果的です。
- ・ 栄養密度の向上：採食量が落ちていても必要な栄養を確保できるよう、良質な粗飼料や添加剤を活用し、飼料全体のエネルギー密度を高める工夫が求められます。

3. 『早めの準備と従業員の安全』 暑熱対策は「暑くなってから」では間に合いません。

- ・ 機器の点検：本格的な夏が来る前に、扇風機の清掃や散水システムの動作確認、詰まりの解消を済ませておきましょう。
- ・ 管理者の安全確保：家畜だけでなく、作業者の熱中症対策も不可欠です。こまめな水分・塩分補給、通気性の良い作業服の着用など、万全の体制で臨みましょう。



畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究について

最近の畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究課題をお知らせします。研究成果や内容にご関心がありましたら、畜産研究センター・養鶏研究所へお問い合わせください。

<完了した試験研究課題>

○とうもろこし有機肥料利用技術確立試験 【酪農飼料班】

近年、化成肥料価格の高騰と線状降水帯に起因する湿害リスクが顕在化しており、鶏糞堆肥ペレットによる代替効果を検証しました。速効性肥料である尿素液肥を併用することで、化成肥料と同等の施用効果が実証され、冠水被害対策においても同等の湿害軽減効果が認められました。



写真1 冠水処理の様子

○銘柄豚収益向上技術開発試験（アミノ酸比率法飼料の検討） 【養豚班】

豚肉の脂肪交雑向上は品質向上に有効であり、飼料中のリジン/粗蛋白質比を調整したアミノ酸比率法飼料の影響を検証しました。従来から推奨される中リジン/高蛋白質配合（0.56/16.9=0.033）と比較して、低リジン/中蛋白質配合（0.48/13.0=0.037）は同等の発育性および肉質を示し、経済性の優位性も実証されました。



写真2 試験中の様子

<現在取り組んでいる試験課題>

○乳牛行動情報指標化技術確立試験（R6～R8） 【酪農飼料班】

ICT（情報通信技術）でモニタリングされる反芻行動を乳牛の飼養管理指標として活用する技術確立を目指し、基準値の探索や適正な反芻行動に導く乳牛管理手法の検討に取り組んでいます。

○自給トウモロコシ飼料多給型酪農確立試験（R8～R10） 【酪農飼料班】

飼料トウモロコシに二期作安定多収技術を活用し、飼料トウモロコシの効果的な乳牛への多給技術、飼料コストの低減を図るとともに、生産性向上（乳量や乳質アップ）の可能性を検討しています。

○和牛肥育発育性向上技術確立試験（R7～R9） 【肉牛班】

あかね和牛など若齢肥育においては、重要な枝肉増加技術を確立するため、哺育・育成期、肥育前期の増体向上、給与栄養成分強化につながる飼養管理技術を検討しています。

○繁殖豚暑熱ストレス軽減技術確立試験（R8～R10） 【養豚班】

繁殖母豚における夏季の生産性改善技術を確立するため、ヒトの熱中症対策として有効とされる晩かん類に多く含まれるオーラプテン（AUR）および代謝効率の高い高脂肪飼料の給与による繁殖豚暑熱ストレス軽減技術を検討しています。

○鶏低タンパク質飼料給与体系確立試験（R6～R9） 【家禽研究室（養鶏研究所）】

採卵鶏について、生産性を維持しながら飼料費低減を図るため、タンパク質含量を抑えて価格を低減した配合飼料とアミノ酸製剤を組み合わせた飼料給与方法を調査検討しています。

○鶏卵鶏肉高付加価値創出試験（R7～R9） 【家禽研究室（養鶏研究所）】

鶏卵、鶏肉の差別化、高付加価値化を図るため、鉄剤等を添加した飼料給与による鶏卵、鶏肉への鉄の移行等や特殊卵の可能性について検討しています。

がんばる愛媛の畜産

第 41 回四国連合乳牛共進会でグランドチャンピオン賞受賞！

令和 8 年 4 月 18 日に、四国 4 県の代表牛による乳牛品評会である「第 41 回四国連合乳牛共進会」が、徳島県板野郡上板町の全農とくしま・上板畜産センターで開催され、四国各地から集まった優秀な乳牛が、月齢及び産歴の有無別に 12 部門で序列を競い合いました。

厳正なる審査の結果、西予市の入船篤志氏出品牛（ホワイトリバー ヒンペル クイーン シンデレラ号：写真①）が経産牛のグランドチャンピオン賞（農林水産大臣賞）に輝き、リザーブチャンピオン賞（中国四国農政局長賞）を西予市の稲葉ヴィレッジファーム出品牛（イナバ デルタラムダ クラツシユミテイ号：写真②）が受賞しました。

未經産牛の部では、グランドチャンピオン賞（畜産局長賞）を西予市の石山雄紀氏出品牛（パープル WR ハクセル ラムダ号：写真③）が受賞し、リザーブチャンピオン賞（中国四国農政局長賞）を西予市の野村高等学校出品牛（GHS リットカイト フールー サンゴ号：写真④）が受賞しました。

愛媛県からは合計 18 頭が出品され、各部の順位から点数付けした県別総合得点でも優勝を飾るなど、酪農家の皆様の改良成果や飼養管理技術が発揮された素晴らしい結果となりました。

①



経産牛グランドチャンピオン賞受賞牛
（ホワイトリバー ヒンペル クイーン シンデレラ号）

②



経産牛リザーブチャンピオン賞受賞牛
（イナバ デルタラムダ クラツシユミテイ号）

③



未經産牛グランドチャンピオン賞受賞牛
（パープル WR ハクセル ラムダ号）

④



未經産牛リザーブチャンピオン賞受賞牛
（GHS リットカイト フールー サンゴ号）

電源立地地域対策交付金を活用した機器整備

令和 7 年度電源立地地域対策交付金を活用して以下の機器を整備しました。

整備機器	超音波家畜生体肉質測定装置、クリ ープメータ、倒立顕微鏡システム	マイクロプレートリーダー
整備施設	畜産研究センター	養鶏研究所
目 的	整備機器による分析体制の強化により、飼料コスト低減や繁殖基盤強 化、生産物の高付加価値化等に資する研究開発と普及に取り組み、本県畜 産農家の経営安定を図ります。	

整備機器	高速冷却遠心機	動物用多項目自動血球計数装置
整備施設	家畜病性鑑定所	南予家畜保健衛生所
目 的	整備機器を活用した高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱を含む家畜の伝 染性疾病の迅速・正確な検査に基づく飼養管理指導を行うことにより、発 生の予防及びまん延を防止し、本県畜産農家の生産性向上を図ります。	

“ご相談、お問い合わせは、こちらへ”

愛媛県畜産課

Tel (089) 912-2575 Fax (089) 912-2574

東予家畜保健衛生所

Tel (0897) 57-9122 Fax (0897) 57-9155

中予家畜保健衛生所

Tel (089) 990-1333 Fax (089) 955-1234

南予家畜保健衛生所

Tel (0894) 62-0026 Fax (0894) 62-1120

家畜病性鑑定所

Tel (089) 990-1341 Fax (089) 955-1234

家畜病性鑑定所南予分室

Tel (0894) 62-2270 Fax (0894) 62-1120

畜産研究センター

Tel (0894) 72-0064 Fax (0894) 72-0065

畜産研究センター養鶏研究所

Tel (0898) 66-5004 Fax (0898) 66-5093